

第26回

内津文化財祭



郷土に伝わる無形民俗文化財

「棒の手」披露

13:10~13:25

迫力の和太鼓演奏

春日井不二太鼓 13:30~14:15



師範 山川慎平

梶田華那

亀井優花

佐伯奏舞

伊藤結衣子

村瀬壮太

日時

5/11 土

13:00 ~ 15:45

雨天の場合翌日順延

場所

内々神社

観覧無料

- 開会式 13:00 ~ 13:10
- 御舞台など指定文化財の展示
- 三十六歌仙額の公開 14:20 ~ 15:45
- 社殿・庭園・すみれ塚ガイド 14:20 ~ 15:45
- 茶会 13:10 ~ 15:45
呈茶券(500円)は当日会場で販売

【主催】内津文化財祭実行委員会 春日井市 春日井市教育委員会

【協力】内々神社文化財保存会 春日井市茶道連盟 春日井文化財ボランティアの会

問い合わせ 春日井市教育委員会文化財課 Tel. 0568-33-1113 春日井市ホームページ <https://www.city.kasugai.lg.jp/>

春日井不二太鼓

～平成2年 2人のおじさんの思いから～

手作り太鼓を10基制作。

この世に「生」を受け、純真無垢な子ども達は、その場の環境に染まる。そんな子ども達が自分の「気」で創意工夫をしながら、恐れずに行動をし、その成長の中で怒りや悲しみ、喜びを五感で感じ学ぶことのできる、即ち「子ども達の心のふるさと作り」を目的とした団体である。そして、30数年歩んで多くの子ども達が大きく成長！それぞれの道へ、そして今。

第26回

内津文化財祭

庭園

(県指定 名勝)

廻遊式林泉型の庭園で、社伝によると南北朝時代の名僧、夢窓国師(1275～1351)の作と伝えられています。石組等の様式から江戸時代に作庭されたとの見解もあります。

庭は社殿の裏側にあって、少しの平地と急斜面を利用し、南北につくられています。神社裏山の自然の岩が巧みに取り入れられ、石組みといい、庭樹といい、山の斜面や池畔を美しく飾っています。

社殿

(県指定 建造物)

この社殿の建て方は、本殿と拝殿を中間の幣殿で連結した「権現造り」です。

近世後期に大きな足跡を残した立川建築で、立川富棟、富之、富方親子が10年余りの歳月をかけ、文化年間(1804～1817)に完成したものです。

建築様式、彫刻の手法など江戸時代後期の傾向を示すものであって、県内に現存する近世神社社殿を代表する貴重な建築物です。

御舞台

(市指定 有形民俗文化財)

この御舞台は神社の例祭に使用されるもので、「壇尻」「楽車」とも書き、俗に「だんじり」「やま」「だし」ともいいます。

社殿を建立した立川内匠が制作したもので、参拝者や内津宿の泊まり客に奉加(寄付)を請い、その浄財をもって完成したものであるといえます。

この御舞台の上で稚児や獅子が舞い、かつては下街道を下町のお旅所まで引いたそうです。



「棒の手」は、棒や刀を使う武術的な民俗芸能で、愛知県の尾張と三河の旧国境を中心に多くの流派が傳承されています。「棒の手」で使用する道具は、棒・太刀・鎌・槍・傘などがあり、これらの道具を組み合わせる演技を行います。春日井市内で保存傳承活動を行っている各地域の保存会では、毎年、地元の神社の祭礼などで「棒の手」を奉納しています。

[内々神社]

春日井市内津町24番地
県道内津勝川線(旧国道19号)北側

お車でお越しの際は臨時駐車場をご利用ください。